

「感性工学」に感動 - 関西学院大学・長田典子教授 - - 2014年5月度 ATIS 例会（その2） -

ATIS の5月度例会で、関西学院大学・長田典子教授に講演をしていただきました。演題が「共感覚の不思議～感性工学 音楽や文字にも色が見える～」でした。

「感性のものさしをつくる」「絵を聴く、音を見る」「感性価値の創出」と3つの部分に分けて講義をしていただきました。

照明の色調を変化させると人間はどのように感じるのかを心理解析・生理解析したり、お風呂にマイクロバブルを導入した場合の快適感をラッセルの感情円環モデルで評価したり、パトカーの屋根についている「パトライト」のON-OFF時間を変えると、同じ明るさなのに、視認性が変化したり、と実例をたくさん交えて「感性のものさし」を説明していただきました。

そして、色とイメージの関係、映像と音楽の関係を学んでから本題の「共感覚」に入りました。「音を聴くと色が見える」「味から物の形が感じられる」「色から味が感じられる」、こうしたことが出来る人が200人にひとりくらいいるのだそうです。

長田先生自身が「共感覚」保持者で、文字に色がついて見えるとおっしゃっていました。会場にもひとり、文字に色がついて見える方がいらっしゃいました。子供さんも文字に色がついて見えるのだそうです。

「共感覚」保持者は男女同比率であり、遺伝すること、芸術家に多くみられ、普通の人々の7倍もいることを教えていただきました。

fMRI で脳の活性部分をみると、「共感覚」を感じることができる人はV4連合領域の活動が見られるのだそうです。脳科学の面からも「共感覚」が証明されたとのことでした。

ほかにも、動画を交えたり、テレビ出演のビデオを見せていただいたり、楽しい講義が続きました。「感覚は、我々が思うほど独立していない」「芸術とはなにか」納得です。

普段、経営のことしか考えていない ATIS メンバーには、とても新鮮に感じられた講義でした。長田先生、ありがとうございました。

